

**早稲田・カルコン合同シンポジウム**  
**「日米関係と教育交流の発展」～日米双方の留学生倍増へ向けて～**

■ **開催期間及び開催地**

(1)開催日：2012年5月17日（金） 9：30-17：10 シンポジウム

(2)開催地： 早稲田大学・国際会議場（井深ホール）

■ **主催：**

国際交流基金日米センター

■ **共催及び後援等：**

共催：早稲田大学

後援：外務省、文部科学省、日本経団連、駐日米国大使館、日米研究インスティテュー  
ート（USJI）

■ **事業の概要：**

(1)趣旨：

日米文化教育交流会議（The United States-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange, 通称カルコン CULCON）が、日米関係と教育交流の発展に資するため、「日米双方の留学生倍増」を議題としたシンポジウムを早稲田大学と共催実施をした。

(2)事業内容・目的：

戦後60年を経て、政治・経済・社会的に成熟してきた日米関係は、今後も両国のみならず、世界、特にアジア太平洋地域の安定的発展にとって重要である一方、高等教育分野については、米国から日本への留学生は増加傾向にあるものの数的には低調であり、また日本から米国に留学する学生数は年々減少の一途をたどるなど、人的交流の先細りが懸念されている。

こうした交流低迷の要因や対策を具体的に検討するため、本年1月にハワイにおいて開催された日米文化教育交流会議（以下カルコン）教育タスクフォース合同会議における提言案を骨子とする中間報告を踏まえ、日米の留学生を含む人的交流における課題や問題意識を共有し、具体的な提言案の実現に向けた関係者（政府、大学、経済界）による取組や協力の在り方について議論する場としてシンポジウムを開催する。

■ **参加者（敬称略）：**

【開会挨拶】

榎原 稔 CULCON 日本側委員長

ジョン・V・ルース 駐日米国大使

ノーマン・ミネタ 元米国運輸長官・商務長官・下院議員

芝田 政之 外務省 国際文化交流審議官

森口 泰孝 文部科学省事務次官

【パネルディスカッション1：日米関係と人的交流の強化・拡充】

(モデレーター)

佐藤 禎一 CULCON 日本委員、国際医療福祉大学大学院教授

(パネリスト)

スーザン・スティーブンソン 米国 国務省 次官補代理 東アジア・太平洋担当

マーク・ディビットソン 駐日米国大使館 広報・文化交流担当公使

スーザン・ファー CULCON 米国委員、ハーバード大学教授 日本政治学

芝田 政之 外務省 国際文化交流審議官

加藤 重治 文部科学省 国際統括官

石原 邦夫 日本経済団体連合会 副会長

田口 栄治 国際交流基金 理事

【パネルディスカッション2：日米学生交流の強化に向けた具体的取組】

(モデレーター)

広田 真一 早稲田大学国際部長

(パネリスト)

文部科学省「大学の世界展開力強化事業タイプB-1」採択7校の生徒代表

【ランチョン・セミナー】

(モデレーター)

ティエリー・ポルテ CULCON 米国側委員長

(パネリスト)

前原 金一 経済同友会副代表幹事・専務理事

キャシー松井 マネージング・ディレクター グローバル投資調査部門

【パネルディスカッション3：日米の高等教育交流の深化・発展に向けて】

(モデレーター)

飯野 公一 早稲田大学留学センター所長

(パネリスト)

シーラ・スミス CULCON 米国副委員長、米外交問題評議会日本担当シニア・フェロー

長谷川 知子 経団連社会広報本部主幹

江川 雅子 東京大学理事

ピーター・モラン ワシントン大学 国際部長

ケリー・ピーターソン 早稲田大学国際教養学部4年生

## 【開会挨拶】

内田 勝一 早稲田大学副総長

### ■ 実施概要：

事業は3部構成で行われた。

シンポジウム冒頭、駐日米国大使のジョン・V・ルース氏、日系アメリカ人として初めて米国の閣僚となったノーマン・ミネタ氏等からご挨拶を頂き、その後、日米両国の有識者が一堂に会し、日米関係を支える人的交流や日米双方の留学生数倍増へ向けての議論をパネルディスカッション形式にて行った。議論の中で、日米間の教育交流を活性化させ、国際的に活躍できる人材を育成していくために日米双方で何ができるのかについて、活発な意見が交わされ、聴衆の中からも積極的な質疑応答がなされた。昨今の日本を取り巻く経済状況が、米国への留学生を減少させる一因ではないかとの問いに対して、経団連からは奨学金の取組みや大学生の就職活動開始時期の見直し等の検討状況が報告された。

午後の第2部、3部のパネルディスカッション（第3回日米高等教育パネル）では、「日米の高等教育交流の深化・発展に向けて」を議論の中心に置いて、日米各界の有識者及び学生が、それぞれの立場で発言し会場も巻き込んで議論を行った。学生の発表は具体的かつ実践的であり、多くの聴衆から質疑応答を得た。

なかでも、第3部に登壇をした早稲田大学の米国人学生による日本留学までのエピソードは、聴衆として参加をしていた多くの大学関係者に留学生を増加させるための施策の気づきを提供したようである。

なお昼食時に行われた招待制のランチオン・セミナーでは、“Developing Global Talent for Economic Competitiveness”をテーマに、経済的な競争力を高めるための人材育成について、パネリストの有識者と聴衆の間で活発な意見交換が行われた。

### ■ 来場者数

来場者数：約250名

以上